

会議議事録

1 会議名	平成 28 年度 長岡市スポーツ推進計画（仮称）策定に伴う第 2 回策定検討委員会
2 開催日時	平成 28 年 10 月 14 日（金）午後 2 時から午後 3 時 40 分まで
3 開催場所	さいわいプラザ 6 階 604 会議室
4 出席者名	<p>【策定検討委員会】7 名（10 名中） 篠田委員、野口委員、丸田委員、樺澤委員、渡辺委員、結城委員、山岸委員</p> <p>【市事務局】5 名 スポーツ振興課（川上課長、田上課長補佐、北原係長、大塚係長）、委託業者（木村）</p>
5 欠席者名	【策定検討委員会】穂刈委員、小林（文）委員、小林（淳）委員
6 議題	<p>○長岡市スポーツ推進計画（仮称）策定について</p> <p>①計画の項目立てについて</p> <p>②現状と今後の課題について[第 1 章関係]</p> <p>③基本目標について[第 2 章関係]</p> <p>④基本施策について[第 3 章関係]</p> <p>⑤計画の名称の決定について</p>
7 協議結果の概要	<p>○ ①計画の項目立てについては了承を得た。</p> <p>○ ②現状と今後の課題[第 1 章関係]について大きな疑義はなく、事務局で内容、文言の精査を進めることとした。</p> <p>○ ③基本目標[第 2 章関係]について、考え方への意見はなかった。目標数値に関しては、設定根拠や市民のわりやすさの観点から、項目、数値ともに事務局で再検討することとした。</p> <p>○ ④基本施策[第 3 章関係]について、内容、表記への意見を踏まえ、事務局で再検討することとした。</p> <p>○ ⑤計画の名称は、「長岡市スポーツ推進計画」に決定した。</p>
8 協議の内容	(次頁参照)

<p>委員長</p>	<p>■議題①計画の項目立てについて（事務局から資料説明）</p> <p>前回の会議で「育てる」を活かしたいという意見がたくさんでした。それを基本目標に最初にもってきたというのが一番の眼目である。「育てる」は興味深いもので、これからの市政においても期待できるものだと思う。各委員から計画の項目立てについてのご質問やご意見を賜りたい。</p>
<p>委員</p>	<p>（意見なし）</p>
<p>委員長</p>	<p>特に意見がないようなので、次に進む。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>■議題②現状と今後の課題について[第1章関係]（事務局から資料説明）</p> <p>各委員から「第1章 計画の基本事項」についてのご質問やご意見を賜りたい。20頁に長岡地域にはコミュニティスポーツクラブ36団体とあるが、どこの地域のどの施設がコミュニティスポーツクラブに該当するのか教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>長岡市では、スポーツ推進委員会を中心としたサークルやクラブを重視するとともに、それぞれの地域推進組織に対して助成制度を設けている。また、コミュニティセンターができる以前には、公民館ごとに推進組織があり、現在は、コミュニティスポーツクラブの中に健康や体力づくりなどスポーツに関して地域住民が主体的に参画する組織、スポーツ部会などがある。</p>
<p>委員</p>	<p>公民館などではそういったところにスライドしているケースや単独で存在しているケースもあり、この計画では、そうしたコミュニティスポーツを推進する役割を担う組織をコミュニティスポーツクラブと呼んでいる。したがって長岡地域36団体はコミュニティセンター内に設置された推進組織のトータルでの数である。</p> <p>昔、公民館であったところが、国体の時に体育を推進しようということで、各地域に体育会が置かれ、それが60数年続いている。また、体育会は健康づくりを主に担い、それとは別にスポーツ協会も設けられ、公民館には体育会とスポーツ協会の二つの組織がある。ただし、各組織自身がコミュニティスポーツクラブであると自覚しているとは言い難い。</p>
<p>事務局</p>	<p>市では、市民のみなさんにスポーツを浸透させていくために、より身近な場であるコミュニティセンターを核とした活動を推進していきたいと考えている。各コミュニティで子どもから高齢者までのスポーツに対して目配りをしていただくことで、スポーツの推進や育成を図ることができる。このことを計画案で改めて記載し、一層の推進を図りたい。</p>
<p>委員</p>	<p>事務局からの説明で、長岡地域のコミュニティスポーツクラブ36団体のひとつである私たちのコミュニティセンターが、スポーツ活動の基盤強化に欠かせないという認識を持つことが必要だということがわかった。</p>
<p>委員</p>	<p>19頁に『新たなスポーツへの関わりとして、スポーツボランティアの育成が必要』と記載されているが、各種目に専門的な知識がある方をスポーツボランティアと定義づけているのか。</p>

事務局	<p>今は中学や高校で競技をやっていた方が種目の指導や大会運営などを支えている現状だが、これからは「スポーツはあまり得意ではないけど観ることは好き」あるいは「大会のお手伝いはできる」という人たちもスポーツボランティアと考えている。今までスポーツになじみのない市民も、ボランティアを通してスポーツに関わっていただきたいという願いを含めてスポーツボランティアと定義している。</p>
委員	<p>ボランティアには、福祉ボランティア、市民活動ボランティアなどがある。そういうものと同様の定義と理解できた。</p>
委員	<p>中央ボランティアセンターが新たにできたが、そういうところでもスポーツボランティアを募集するということか。スポーツだからスポーツ関係のところだけで募集することではないということか。</p>
事務局 委員長	<p>様々な施設などを通して、幅広く募集を行っていききたい。</p> <p>今までスポーツに関わりのなかった市民に新たな知識や技術を学んでいただいて、積極的に参画していただく仕組みを作っていくことだと思う。そうするとスポーツボランティアもかなり幅広くなっていく。一般ボランティアの中でも、特にスポーツが強調される場面に参画していくことや、有資格者で能力を活用したいという人も育てたいという内容が入れば、幅の広い内容になる。</p>
委員	<p>県の審議会でも、日常生活が困難な障がいのある人は積極的に外に出ていける状況ではない。そうしたことも踏まえて、障がい者も積極的に関わるような内容も必要であり、障がいのある人のスポーツ振興や雇用も膨らむと思う。</p>
委員 事務局	<p>18頁のスポーツ普及委員の選ばれた方と役割を教えてください。</p> <p>スポーツ推進委員はスポーツ基本法の中で定められており、長岡市では各地区からの推薦で市が委嘱している。また、スポーツ普及は長岡市独自の取り組みであり、スポーツ推進委員と一緒に地域のスポーツの普及活動や教室の運営などに努めていただく方々を地域の推薦によって市から委嘱している。</p>
委員 事務局	<p>18頁のコーディネーターとは誰か。</p> <p>スポーツ基本法でスポーツ推進委員の役割に加えられたもので、スポーツ推進委員やスポーツ普及員が実技指導だけではなく、地域住民と市が進める取り組みなどの橋渡し役、調整役、コーディネーターとしての役割も果たしていただくことになる。</p>
委員長	<p>2つの希望を話す。1つ目は、5つの基本目標の中に総合型地域スポーツクラブがある。これを推進するには有資格者だけではなく、市民の育成が必要であり、広域スポーツセンターを拠点に育成するという考え方もできると思う。広域スポーツセンターは、現在、新潟県にひとつだが、長岡地区に新たに整備すれば、長岡市が中越の中心的な存在になるとともに、利用者が東京方面から新幹線で来て、寺泊や赤泊で遊んで長岡市に戻ってから帰るというスポーツツーリズムも増える。競技スポーツの強化合宿や、そこへの指導者の派遣など人も集まってくる。常駐者を配置することで雇用も生まれる。将来的に、こうした可能性を持つ広域スポーツセンターを長岡市が設置すると心強い。</p>

	<p>2つ目は、メリハリのない生活をしている人を、朝型、昼型へのライフスタイルにコーディネートしていける指導者の育成が必要である。また、アンケートから20代、30代の女性が一番運動をしていないということがわかる。この層に対しては運動の推奨だけではなく、受け皿となる保育付きの施設があれば、スポーツに対する興味や意識が高まる。こうした雇用促進や女性がスポーツに親しめる取り組みを横断的に導入していくことも重要である。</p>
事務局	<p>広域スポーツセンターや障がい者スポーツセンターについては、ご専門の委員と意見交換をさせていただいている。その中で、拠点がひとつだけではなく、長岡市や上越市にそれぞれ拠点を設置する方が良いという話もでている。</p>
委員	<p>県の障がいスポーツ担当としては、障がい者のスポーツセンターの目標として県内4か所の拠点が必要と考えており、そのひとつが長岡市であれば良いと考えている。また、各市町村に障がい者スポーツの促進を進めているが、最終的には市町村が単独で行うことが最適と思っている。</p>
委員長	<p>様々な意見に感謝する。「第1章 計画の基本事項」に関しては以上とする。</p>
委員長 委員	<p>■議題③基本目標について[第2章関係]（事務局から資料説明）</p>
	<p>各委員から「第2章 基本方針」についてのご質問やご意見を賜りたい。</p> <p>基本目標の数値は必要なのか疑問をもっている。確かに、目標がないと計画の進捗などを測ることができない点はあると思うが、「画に描いた餅」にならないよう、中間目標、最終目標の設定根拠や増加する根拠がある程度明確にできると良い。</p> <p>例えば、目標4で「スポーツ教室・クラブの開設目標 1,000件」だが、現状の854件で足りないため、もう少し増やすといった理論が必要になる。</p> <p>また、「支える」スポーツの推進の「日体協公認スポーツリーダー資格取得数」は前述と整合していないので、確認してほしい。</p>
事務局	<p>前回の策定会議でも目標設定について意見があり、事務局内部でも議論した。例えば、目標2「する」スポーツの推進についての項目の『週1回以上、運動やスポーツを行う市民の割合（18歳以上）』では、国の目標を根拠として設定した。</p> <p>今回の計画は、行政、関係機関団体、市民などが全員で長岡市のスポーツを振興していこうというものであり、その努力目標として数値を示した方が良いと考えた。道路や橋などの工事で「何年後に完成」という目標は立てやすいが、スポーツでは具体的な数値が立てにくいと改めて感じている。しかし、だからこそ、目標数値を設定して、できるだけ目標数値に近づくよう、皆で協力していくことが大事だと思っている。仮に、10年後に目標値に到達していなかったとしても、その時点の伸びを検証し、次の数値目標を立てることが理に適っており、目標数値はぜひ設定したいと考えている。</p> <p>目標1の指標「子どもを対象としたジュニアスポーツクラブ数」は、少子化で子どもの数自体が減少することを踏まえ、現行計画の人数設定からクラブ数に変更した。また、幼年体育団や少年スポーツクラブでは、これから対象を広げてい</p>

	<p>く計画があると聞いている。子どもたちが参加したいと希望した時に、受け皿が地域にあることは「育てる」スポーツの中でも特に重要になる。小学校や中学校では部活が統合されて縮小されている現実を受け止めつつ、地域の中でサポートしていくことが大事になる。そうした意味からも、今後、それぞれの地域実情から、地域の中でどれくらい受け皿が必要なのかをスポーツ協会と協議しながら、中間目標、最終目標の空欄を設定したいと考えている。</p>
委員	<p>確かに目標を設定するとわかりやすいが、無理をして目標をひねり出す必要はないと思う。例えば「支える」スポーツの推進では「スポーツ教室・クラブ開設数」の平成 38 年目標値の 1,000 クラブが、人口 27 万の長岡市で本当に適切か判断がつかないし、理論的な根拠で設定している訳ではない。目標を設定するのであれば、無理のない総合的な目標に集約していく方が良いと思う。23 頁に謳われているスポーツ推進の基本的な考え方である「市民自らがスポーツを楽しみ、健康で生きがいを感じるまちづくり」を総括する 3 つの目標程度に集約する方が現実的ではないかと思った。</p>
委員	<p>目標 4 の「支える」スポーツの推進、「スポーツ教室・クラブ開設数」の目標については、人口が減少している中で、また、ひとつのクラブに実際に何人が入っているのかわからない状態で、平成 38 年の目標を 1,000 クラブとするのは、確かに無理があるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>目標数値は、人口千人あたりに必要なクラブ数というように設定すると、わかりやすくなる。そういう根拠があれば、人口が想定より減少しても、クラブ数が同じで人口が減れば、割合が増える。そのため、人口動態を加味した目標数値も検討しても良いと思う。</p> <p>また、「する」スポーツの推進についても、人口全体で 65%にすると、なかなか達成しにくいと思うが、20～30 代の女性のスポーツへの参加が低い現状から、人口何人あたりの参加する女性何人とした方がわかりやすくなる。</p> <p>こういうやり方は、国や県との比較がわかりにくくなるが、長岡市独自で人口動態を勘案した目標数値を出すことで委員の意見が反映される。達成目標として出すものと、努力目標として出すもの、具体的な数で出していくもの、単純なパーセンテージで出していくものなどの使い分けを検討することも必要である。</p>
事務局	<p>「育てる」スポーツの推進の中で、「子どもを対象としたジュニアスポーツクラブ数」は、長岡市の児童や生徒を母数にして、その子どもたちが週 1 回以上スポーツ活動をしている割合にすると、人口減少になった場合にも変わらないため、比較としては意味があると思う。この場合、当然、すべての子どもたちが週 1 回、地域や学校でフルに体を動かす習慣づけをしようということで、100%に近い数値が最終目標になる。この項目については、今現在の数値はなく、遡って平成 15 年のものはあるが、これを参考値として出していくのであれば根拠になると思う。また、人口どれくらいあたりに、どのくらいのクラブ数が妥当かを国で示しているものがあるかどうか委員長にお聞きしたい。</p>

委員長	<p>総合型地域スポーツクラブの基準は中学校区に1つといわれるが、中学校の生徒数が数値の根拠になると思う。学年が進むにつれてクラブに参加する数も減少することも勘案し、中学校区に最低1つはあってほしいという国の意向がある。それを長岡市では小学校区にするとか、あるいは1.5倍にするなど、国の考えを勘案して設定すれば、説明できると思う。</p>
委員	<p>適性数はなかなか難しいが、事務局が先ほど話された「最終目標100%」はひとつの目安となり、達成する目標としてわかりやすいと思った。また、総合型スポーツクラブは現在5つであり、「スポーツ教室・クラブ開設数 854クラブ」という数字は無理がある気がする。</p>
委員 委員長	<p>一人で複数のクラブに加入しているケースもある。</p> <p>週1回スポーツをする人は、現実的には本当に参加する人は人口比の20~30%ではないか。それを国の目標のように65%や70%の目標にした時に、全員が同時に参加した時の受け皿は何処にあるのかという話にもなる。それを考えると本当に現実的な数字かどうかというのが疑わしくなる。長岡市の人口27万の65%が同時にやったら受け皿はない。そのために、週1回くらいずつ交代でというのが65%の大雑把な考え方である。</p>
事務局	<p>数字を出すと達成目標として捉えがちだが、国も県もこうしたことを追求しながら数値を出しているため、長岡市も出さないわけにいかない。その出し方と説明の仕方を工夫していくと理解しやすくなる。事務局には、目標値の設定についての様々な意見を考慮して検討をお願いする。</p>
委員	<p>人口あたりの割合での目標値であれば妥当だという意見も参考にして、全国のケースを調べて再検討する。</p> <p>目標1「育てる」スポーツの推進で、スポーツは子どもを育てるだけなのかと考えた。例えば、長岡市では、サッカーJ1のアルビレックス新潟をみんなで育てていこうと応援している。そうしたことから、「育てる」スポーツの推進というのは、子どもをアスリートに育てるだけではなく、スポーツを支えるボランティアも育てていくということも含まれると思う。</p>
委員	<p>そのためにも、ボランティアの登録者人数を「支える」スポーツの推進の中に、ぜひ記載していただきたい。そういった目標があれば「長岡市ではこんなにスポーツを支えてくれる人がいる」というように内外に認識されると思う。</p> <p>「東京オリンピック・パラリンピック」や「新潟国体」もそうだが、必ず講習会を受けなければボランティアに関われない。長岡市ではボランティアもきちんと育てている、みんなが参加できる環境にあるということが伝われば、この地域で何かやろうという積極性も生まれてくると思う。</p>
委員長	<p>「支える」スポーツの推進の中には、直接的なスポーツではないが、栄養学的な面からスポーツを「支える」視点も必ず入ってこなければならない。スポーツ栄養学、スポーツの食にかかわる人たちなども増えてきているといった文言を記載することで「支える」スポーツの推進が幅広くなる。</p> <p>一方、数値目標を掲げると事業評価にも関わってくるため、どのくらいの事業があって、そこにどのくらいの費用をかけているかといった話にもなるため、設</p>

事務局	<p>定には工夫も必要になる。</p> <p>市民の皆さんが見た時に、納得していただけるようなものにしていきたい。</p> <p>また、「する」スポーツ、「競う（競技）」スポーツの両方の基盤として、子どもたちをどう育てるかということが基本的なテーマとなっている。また、よりわかりやすくするために、「支える」スポーツの中で「地元のプロチームなどとの連携を図る」なども記載したい。</p>
委員長	<p>スポーツに直接参加するだけではなく、ボランティア活動などを通して、まちづくり、スポーツ行政などについても、市民自らが積極的に参画していける体制をつくりあげ、記載していくことも大事になる。</p>
委員長 委員	<p>■議題④基本施策について[第3章関係]（事務局から資料説明）</p> <p>各委員から「第3章 基本施策」についてのご質問やご意見を賜りたい。</p> <p>各目標の冒頭に課題をあげているが、項目によっては入っていない課題がいくつかみられるため、整合性がない部分がある。</p>
委員長	<p>「課題」は「施策の方向性」に、「施策の方向性」は「施策の柱」と「主要事業」に表現を変更すると「第1章 計画の基本事項」「第2章 基本方針」を経て「第3章 基本施策」にスムーズに繋がってくる。</p> <p>また、主要事業の中で、「継続」「重点継続」「新規」という表記があるが、「新規」が非常に少なく、「継続」が8割に上っている。現行計画とほとんど変わらないと受け取られないよう、「継続」を削除、「重点継続」「新規」は「重点施策」にするなど、表記の再考が必要だと思う。</p>
委員長	<p>「継続」にしても、新しいということや強化しているということがわかる表現が良いと思う。</p>
事務局	<p>委員の意見の通り、第1章で現状分析と課題を挙げ、それをもう一度、これからの10年の中でやるべき課題として第3章に記載している。</p>
委員	<p>それはそれで生かして、今後の10年間の方向性と表現すると目標がはっきりする。また、方向性と方針の言葉が重複しないよう工夫してほしい。</p>
委員長 委員	<p>委員の意見を参考に事務局で再度精査し、整合性を図っていただきたい。</p> <p>31頁の「(6) スポーツの楽しさや感動を伝える取り組みの推進」の文章で、あえて「小学生低学年」とした根拠はなにか。</p>
事務局	<p>同じ31頁の「(4) スポーツ幼年団等の育成」は低学年向けの事業で、スポーツ少年団と少年スポーツクラブをイメージしている。その前の段階で、スポーツの楽しさを知る機会や触れ合う機会への取り組みが必要と考えている。したがって現在、体育教室的などところに行く前の運動の遊びの機会を関係各課とタイアップしながら事業展開を行っており、これらを意識して「小学生低学年以下の子どもたち」という書き方とした。</p>
委員	<p>あえて低学年以下と区切らなくとも子どものくくりでよいのではないかな。スポーツ少年団とかぶるのではないかな。</p>
事務局	<p>遊びで入って、それが定着して体育遊び、そしてその中でスポーツの基礎をつくって、興味関心に応じて種目を決め、少年クラブで活動する、というプロセス</p>

委員	<p>を意識して記載している。</p> <p>この低学年は、児童クラブを意識していると思った。児童クラブは高学年になると参加しなくなるため、小学校3年生くらいまでが中心である。</p>
委員長	<p>「育てる」スポーツ推進のテーマの表記は、「家庭、学校、地域が連携し、スポーツで子どもたちが育つ」ではなく、「育てる」が適切ではないか。</p>
事務局	<p>子どもたちは自分たちですくすく育つという本能を持っている。それを大事に助長していく意味で「育つ」という言い方にしたが、目標1の「育てる」スポーツとの整合性を図っていく。</p>
委員長	<p>県の教育委員会のガイドラインは「家庭」が「家族ぐるみ」となっている。家族も一緒になって子どもたちを育てましょうということである。また、学校全体や地域の人たちもこぞって子どもたちを育てましょうという意味合いがある。</p>
事務局	<p>委員長の話を参考に、「家庭ぐるみ」「学校ぐるみ」「地域ぐるみ」で子どもたちを育てるといように、もう一度、事務局で検討する。</p>
委員	<p>29頁の課題に『生涯にわたる運動習慣の基礎を形成する上で、学童・思春期のスポーツをする子、しない子の「二極化」の解消』とある。よく読みこめば、スポーツに関心をもったり、スポーツの場を与えたりすることが二極化の解消につながると思うが、施策方針の「1-3 スポーツに親しむ環境づくりの推進」でも二極化について記載できないか。</p>
事務局	<p>二極化解消のためには、「家庭ぐるみ」「学校ぐるみ」「地域ぐるみ」で取り組まないと難しい。スポーツ少年団の数は多いが、幼稚園や保育園、さらに親子で一緒にというように、より早い段階からスポーツを習慣づけていくことが重要だと考えている。それが二極化の解消になることを表現したいという意図がある。「育てる」「する」方向性のところにしっかり二極化について書き込んでいきたい。</p>
委員長	<p>スポーツに親しむことのなかった人たちを取り込める環境づくりの項目に、二極化を解消するなどが記載されていると、二極化の解消が明確に浮かび上がってくる。</p>
委員	<p>30頁「主要事業」に「(1) 親子で身体を動かし、遊ぶ機会の充実」の最初の文章に出てくるコミュニティセンターは、コミュニティスポーツクラブとコミュニティセンターが仲良く連動してスポーツを支えていると記載した方が伝わりやすい。</p>
事務局	<p>現在は、すべての地域にコミュニティスポーツクラブが配置されていないため、ここにコミュニティスポーツクラブをあてはめるのは、時期が早いと考えた。市が大切にしているのは、17頁に『市民が身近な場所でスポーツに親しむことができる基盤としてコミュニティスポーツ推進組織（コミュニティスポーツクラブ）の育成に力を注いでいます。』と記載しているように、コミュニティスポーツ推進組織が、すべての地域に配置されている状況を目指すということ。</p> <p>地域によっては助成を受けた総合型ではないかもしれないが、自分たちの地域にスポーツが根差していくための役割を担っているという意識を浸透させたい</p>

委員長	<p>と考えた。したがって、名称はどうであれ、やろうとしていることはひとつ、ということを経済圏に浸透させていきたいと考えている。</p> <p>現行のスポーツ推進計画は、コミュニティセンター化に策定されたが、計画ではこのまま記載している。大切なのはコミュニティスポーツ組織推進体制という考え方である。国は地域型スポーツクラブを推奨しているが、名称は違って求める理念は変わらないということをしかりと浸透させていきたい。</p> <p>国で「総合型を推進していこう」といった時も、「すでにあるのに総合型ってなんだ」という意見があったはず。それを今の状態にやっと近づけてきた。これに関して各課と調整をとりながら、それぞれに整合性をとっていただきたい。</p>
事務局	<p>■議題⑤計画の名称の決定について（事務局から説明）</p> <p>今回は「長岡市スポーツ振興基本計画」だが、スポーツ基本法では「地方スポーツ推進計画」という言葉を使っているため、新たな計画は「長岡市スポーツ推進計画」で提案したい。</p>
委員長	<p>新潟県は「新潟県スポーツ推進計画」、サブタイトルは「スポーツできらきら輝く」となっており、市民みんなでスポーツを楽しむという意図がある。長岡市は「長岡市スポーツ推進計画」で了承いただけるか。</p>
委員	<p>(了承)</p>
委員長	<p>名称は「長岡市スポーツ推進計画」とする。以上で本日の議題を終わる。</p>
事務局	<p>■その他</p> <p>今後のスケジュールは、本日いただいた意見を基にワーキング部会で検討し、修正する。11月下旬を目指して修正を行い、第3回最終検討委員会でご提示させていただく。本日はこれで終了させていただく。</p>